

氏 名	山 本 昌 恵
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 3 8 号
学位授与年月日	平成 2 2 年 3 月 2 5 日
学位論文題目	下肢リンパ浮腫に対する運動プログラムを加えた複 合的理学療法の効果の検討

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	138	(ふりがな) 氏 名	やまもと まさえ 山本 昌恵
修士論文題目	下肢リンパ浮腫に対する運動プログラムを加えた複合的理学療法の効果の検討		
<p>【目的】 下肢リンパ浮腫の改善、軽減につなげるために、通常の複合的理学的療法に簡易運動プログラムを加え、そのリンパ浮腫に対する有効性と患者の QOL の向上について検討することを目的とした。</p> <p>【方法】 婦人科がん術後の国際リンパ学会の病期分類が、I 期～II 期のリンパ浮腫患者で研究の趣旨と内容を理解し承諾が得られた心疾患、静脈疾患などの合併症を持たない 10 名にたいして、日常生活の中で無理なく実行できる程度の簡易運動プログラムを加えた複合的理学療法の指導を行った。3 ヶ月間、セルフケアの実施状況と下肢周径を自己記入表に記録するとともに、介入の前後に SF-36V2 を用いて QOL の評価を行った。運動プログラム、徒手リンパドレナージ、弾性着衣装着状況は、それぞれが実行された日数で評価し、運動プログラムの平均実施日数と他の指標との相関について解析した。</p> <p>【結果】 10 名の研究協力者においては、年齢、介入時 QOL レベルはまちまちであったが、リンパ浮腫に対する運動プログラムを含めた複合的理学療法によるセルフケアは比較的良好に行われた。しかし、運動プログラムや徒手リンパドレナージが 2 分の 1 程度の日数しか行われていない事例も数事例認められた。また 1 事例では、運動プログラムは比較的良好に実施されていたが観察期間中に腸閉塞を併発し、リンパ浮腫に対しても明らかに悪影響を及ぼしていた。3 ヶ月間の平均運動実施日数と大腿周径減少量は、有意の正の相関を認め、運動が熱心に行われるほどリンパ浮腫は改善する傾向が見られた。しかし、下腿周径、大腿の腫張率の改善、大腿の浮腫減退率、介入前後の QOL 得点変化などの指標は、平均運動実施日数と有意の相関は認められなかった。</p> <p>【考察】 大腿周径減少量と平均運動実施日数との有意の相関が認められたことから、簡易運動プログラムは、リンパ浮腫に対する複合的理学療法の 1 つとして有効である可能性が示唆された。しかしこれ以外の腫張率や浮腫減退率などの指標との間に有意の相関が認められなかったことは、事例数が少なくばらつきが大きいこと、患者の自己測定による健側周囲径の測定結果の誤差などの要因が関与することが考えられた。今回の研究協力者では、運動プログラムと徒手リンパドレナージの実施日数が少なかった事例がオーバーラップしており、運動プログラムの効果が推測されるものの、運動プログラム単独の有効性を結論づけることは難しく、今後の研究が待たれるところである。</p> <p>【総括】 簡単な運動プログラムを追加した複合的理学療法はリンパ浮腫に対するセルフケアとして有効である可能性が示唆された。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
 2. ※印の欄には記入しないこと。